

# 令和7年中の危険物施設等における事故概要

## 予 防 部 危 険 物 課

- ※1 「令和7年中」とは「令和7年1月から令和7年12月まで」を示しています。
- ※2 「製造所等」とは「製造所、貯蔵所及び取扱所」を示しており、「危険物施設等」とは「製造所等、仮貯蔵  
仮取扱所、無許可施設、運搬車両、少量危険物貯蔵取扱所、指定可燃物貯蔵取扱所及び高圧ガス関係施設」を  
示しています。
- ※3 小数点以下の数値は四捨五入しており、個々の数値の和が合計と一致しない場合があります。
- ※4 表中の符号「▲」は、減少を示しています。
- ※5 「少量危険物貯蔵取扱所」及び「指定可燃物貯蔵取扱所」は届出義務のあるものを指します。

## 目 次

1	事故件数及び死傷者の発生状況の推移 .....	1
2	施設区分別の事故発生状況 .....	2
3	発生要因及び発生原因別の事故発生状況 .....	3
4	危険物施設の深刻度評価指標別の事故発生状況 .....	7
5	令和7年中の事故の傾向 .....	9
6	異常現象の発生状況 .....	12
7	無許可・無届施設における火災 .....	13
8	全事故の概要等 .....	14

## 1 事故件数及び死傷者の発生状況の推移

令和7年中に発生した危険物施設等における事故件数は157件で、前年から23件減少となっています。火災事故が38件(24.2%、前年比5件減少)、流出事故が35件(22.3%、前年比3件増加)、その他の事故が84件(53.5%、前年比21件減少)となっています(第1表及び第1図参照)。

これら危険物施設等における事故で、死者は0人(前年比変動なし)、負傷者が8人(前年比4人減少)発生しています(第1表及び第2図参照)。

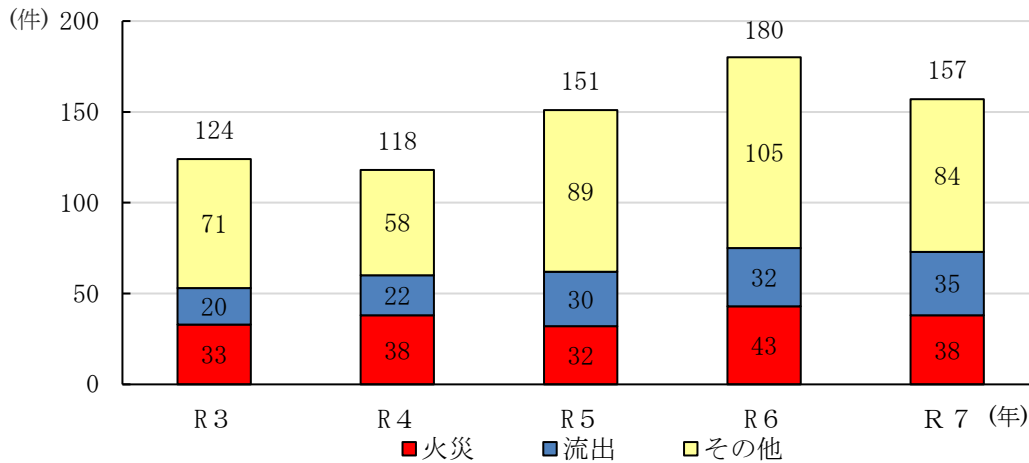
第1表 危険物施設等における事故発生状況の推移(最近5年間)

年 別	合計(件) <sup>※1</sup>	火災(件) <sup>※1</sup>	流出事故(件) <sup>※1</sup>	その他(件) <sup>※1</sup>	死者(人) <sup>※1</sup>	負傷者(人) <sup>※1</sup>
R3(2021)	124(99)	33(16)	20(13)	71(70)	0(0)	3(3)
R4(2022)	118(84)	38(12)	22(15)	58(57)	0(0)	11(5)
R5(2023)	151(123)	32(12)	30(23)	89(88)	1(0)	17(8)
R6(2024)	180(144)	43(19)	32(24)	105(101)	0(0)	12(3)
<b>R7(2025)</b>	<b>157(127)</b>	<b>38(17)</b>	<b>35(26)</b>	<b>84(84)</b>	<b>0(0)</b>	<b>8(7)<sup>※3</sup></b>
前年比 <sup>※2</sup>	▲23(▲17)	▲5(▲2)	3(2)	▲21(▲17)	0(0)	▲4(4)

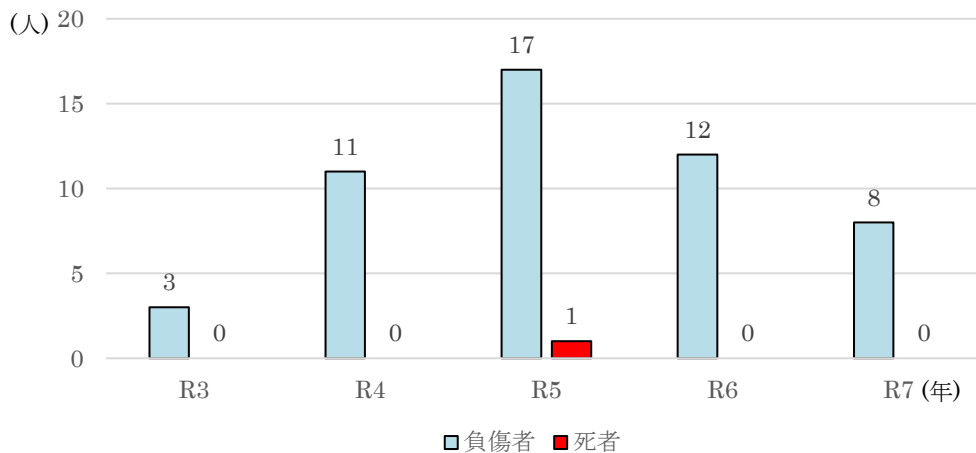
※1 ( )内は製造所等における発生数を示しています。

※2 「前年比」欄の「▲」は、減少を示しています。

※3 傷者の発生した事故の概要について、8,4)にとりまとめています。



第1図 危険物施設等における事故件数の推移(最近5年間)



第2図 危険物施設等における事故による死傷者数の推移(最近5年間)

## 2 施設区別の事故発生状況

施設区別の事故発生状況をみると、製造所等で発生した事故が 127 件（80.9%、前年比 17 件減少）で事故全体の約 8 割を占めています。

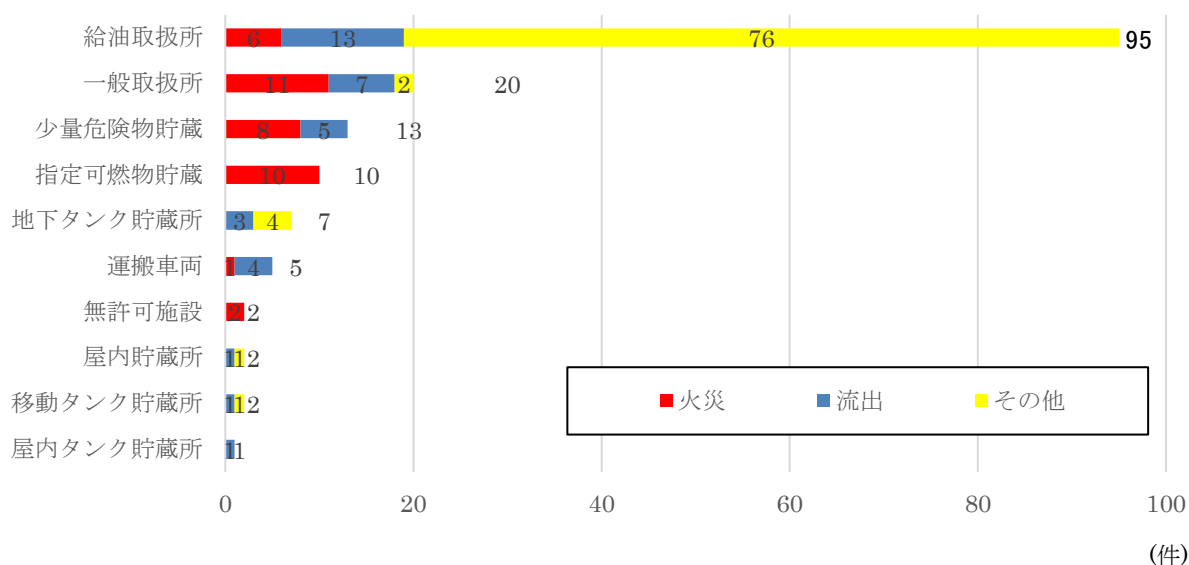
また、給油取扱所が 95 件（60.5%、前年比 10 件減少）で最も多く、全体の約 6 割を占めています。次いで一般取扱所 20 件（12.7%）、少量危険物貯蔵取扱所が 13 件（8.3%）となっています（第 2 表及び第 3 図参照）。

第 2 表 施設区別の事故件数の推移（最近 5 年間）

年別			R3	R4	R5	R6	R7	前年比※ 1	
施設 区 分	製 造 所 等	製造所	1	0	0	0	0	0	
		貯蔵	屋内	0	0	0	0	2	2
			屋外タンク	1	2	2	0	0	0
			屋内タンク	2	0	1	1	1	0
			地下タンク	8	6	7	11	7	▲4
			簡易タンク	0	0	0	0	0	0
			移動タンク	0	1	3	4	2	▲2
		取扱所	屋外	0	0	0	0	0	0
			給油	74	61	95	105	95	▲10
			販売	0	0	0	0	0	0
			移送	0	0	0	0	0	0
		一般	13	14	15	23	20	▲3	
		小計	99	84	123	144	127	▲17	
		仮貯蔵	仮取扱所	0	0	0	1	0	▲1
		無許可施設	1	2	0	1	2	1	
運搬車両	5	3	2	2	5	3			
少量危険物貯蔵取扱所	※2	11(2)	12(5)	14(4)	19(1)	13(3)	▲6(2)		
指定可燃物貯蔵取扱所	※2	8	17(2)	11(0)	11(0)	10(1)	▲1(1)		
高圧ガス関係施設	0	0	1	2	0	▲2			
合計		124	118	151	180	157	▲23		

※1 「前年比」欄の「▲」は、減少を示しています。

※2 少量危険物貯蔵取扱所及び指定可燃物貯蔵取扱所欄の（ ）内は内数で、無届の施設における件数を示しています。



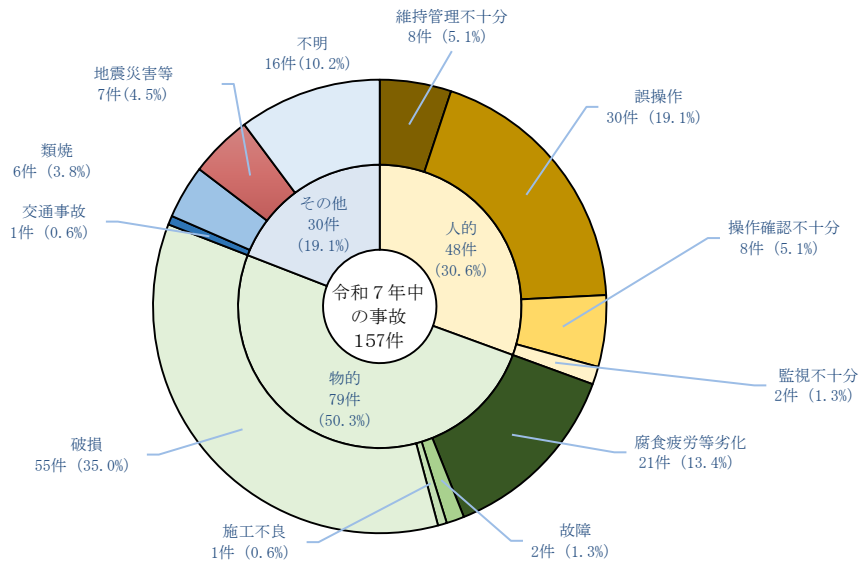
第 3 図 施設区別に発生した事故種別の内訳（令和 7 年中）

### 3 発生要因及び発生原因別の事故発生状況

#### (1) 全事故（157件）の内訳

事故を発生要因別にみると、物的要因が79件（50.3%）で最も多く、次いで人的要因が48件（30.6%）、その他の要因が30件（19.1%）となっています。

また、発生原因別では、「破損」が55件（35.0%）で最も多く、次いで「誤操作」が30件（19.1%）、「腐食疲労等劣化」が21件（13.4%）となっています（第4図及び第3表参照）。



第4図 発生要因と発生原因（令和7年中）

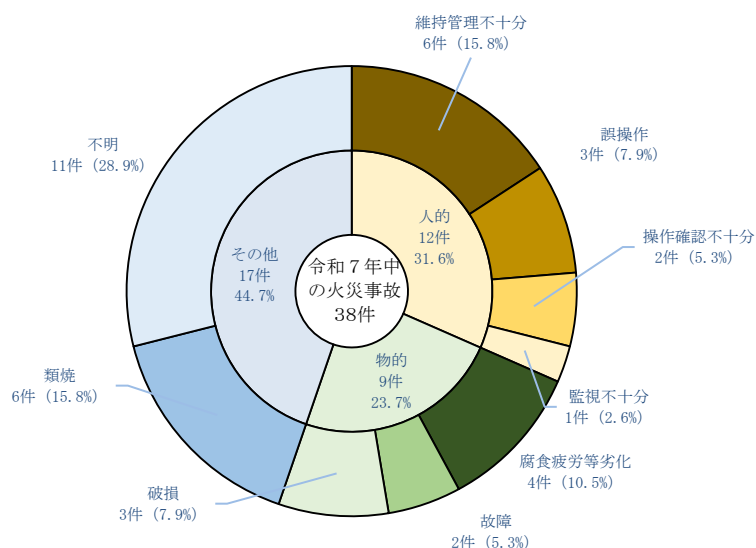
第3表 施設区別の発生要因と発生原因（令和7年中）

施設区分	製造所	貯蔵所						取扱所					無許可施設	運搬車両	仮貯蔵仮取扱所	少量危険物貯蔵取扱所	指定可燃物貯蔵取扱所	高圧ガス関連施設	合計	
		屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外	給油	販売	移送	一般								
人的要因	維持管理不十分	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3	0	1	0	0	2	0	8
	誤操作	0	1	0	0	0	0	1	0	23	0	0	0	1	3	0	1	0	0	30
	操作確認不十分	0	1	0	0	2	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0	8
	操作未実施	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	監視不十分	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	小計	0	2	0	0	2	0	2	0	27	0	0	5	1	4	0	3	2	0	48
物的要因	腐食疲労等劣化	0	0	0	0	4	0	0	0	7	0	0	7	1	0	0	1	1	0	21
	設計不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	故障	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	施工不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	破損	0	0	0	1	0	0	0	0	49	0	0	1	0	0	0	3	1	0	55
	小計	0	0	0	1	4	0	0	0	56	0	0	11	1	0	0	4	2	0	79
その他	放火等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	類焼	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	2	0	6
	地震等災害	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	0	0	0	1	0	0	7
	不明	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	3	0	1	0	4	4	0	16
	小計	0	0	0	0	1	0	0	0	12	0	0	4	0	1	0	6	6	0	30
合計	0	2	0	1	7	0	2	0	95	0	0	20	2	5	0	13	10	0	157	

## (2) 火災事故（38件）の内訳

火災事故 38 件を発生要因別にみると、その他の要因が 17 件（44.7%）、人的要因が 12 件（31.6%）、物的要因が 9 件（23.7%）となっています。

発生原因別にみると、人的要因では「維持管理不十分」が 6 件（15.8%）で最も多く、次いで「誤操作」が 3 件（7.9%）となっています。物的要因では「腐食疲労等劣化」が 4 件（10.5%）で、次いで「破損」が 3 件（7.9%）となっています。その他の要因では「不明」が 11 件（28.9%）と、最も多く、次いで「類焼」が 6 件（15.8%）となっています（第 5 図及び第 4 表参照）。



第 5 図 火災事故の発生要因と発生原因（令和7年中）

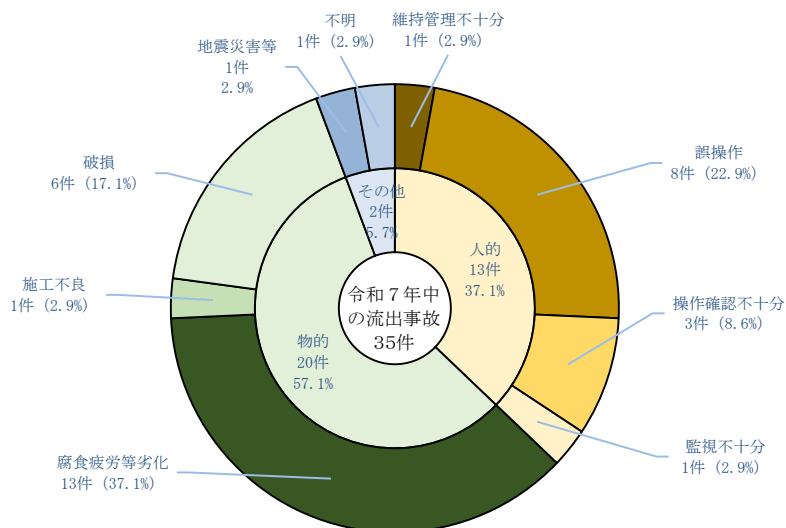
第 4 表 施設区分別の火災事故の発生要因と発生原因（令和7年中）

施設区分	製造所	貯蔵所						取扱所				無許可施設	運搬車両	仮貯蔵仮取扱所	少量危険物貯蔵取扱所	指定可燃物貯蔵取扱所	高圧ガス関連施設	合計	
		屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外	給油	販売	移送								一般
人的要因	維持管理不十分	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	0	2	0	6
	誤操作	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	3	
	操作確認不十分	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	
	操作未実施	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	監視不十分	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
小計	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	1	1	0	2	2	0	12	
物的要因	腐食疲労等劣化	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	4
	設計不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	故障	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	
	施工不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	破損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	3
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	1	2	0	9	
その他	放火等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	類焼	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	2	0	6
	地震等災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	不明	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	4	4	0	11
小計	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	2	0	0	0	5	6	0	17	
合計	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	11	2	1	0	8	10	0	38	

### (3) 流出事故 (35 件) の内訳

流出事故 35 件を発生要因別にみると、人的要因が 13 件 (37.1%)、物的要因が 20 件 (57.1%) 及びその他の要因が 2 件 (5.7%) となっています。

発生原因別でみると、人的要因では「誤操作」が 8 件 (22.9%)、次いで、「操作確認不十分」が 3 件 (8.6%) となっています。物的要因では「腐食疲労等劣化」が 13 件 (37.1%)、次いで、「破損」が 6 件 (17.1%) となっています。(第 6 図及び第 5 表参照)。



第 6 図 流出事故の発生要因と発生原因 (令和 7 年中)

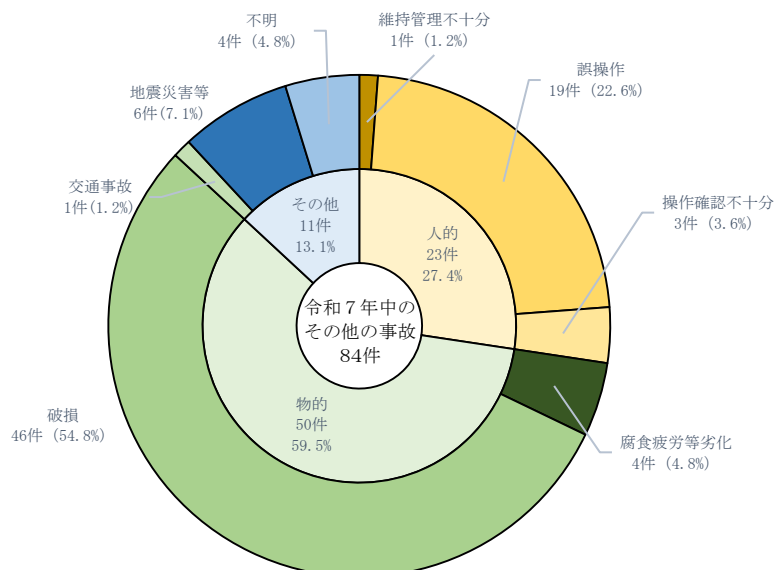
第 5 表 施設区分別の流出事故の発生要因と発生原因 (令和 7 年中)

施設区分	製造所	貯蔵所						取扱所					無許可施設	運搬車両	仮貯蔵仮取扱所	少量危険物貯蔵取扱所	指定可燃物貯蔵取扱所	高圧ガス関連施設	合計
		屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外	給油	販売	移送	一般							
人的要因	維持管理不十分	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	誤操作	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	3	0	0	0	8
	操作確認不十分	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
	操作未実施	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	監視不十分	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	小計	0	1	0	0	1	0	1	0	5	0	0	1	0	3	0	1	0	13
物的要因	腐食疲労等劣化	0	0	0	0	2	0	0	0	5	0	0	5	0	0	0	1	0	13
	設計不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	故障	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施工不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	破損	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	6
	小計	0	0	0	1	2	0	0	0	8	0	0	6	0	0	0	3	0	20
その他	放火等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	類焼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	地震等災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
合計	0	1	0	1	3	0	1	0	13	0	0	7	0	4	0	5	0	35	

#### (4) その他の事故 (84 件) の内訳

その他の事故 84 件を発生要因別にみると、物的要因が 50 件 (59.5%) と最も多く、人的要因 23 件 (27.4%)、その他の要因は 11 件 (13.1%) となっています。

発生原因別でみると、人的要因では「誤操作」が 19 件 (22.6%) と最も多く、次いで「操作確認不十分」が 3 件 (3.6%) となっています。物的要因では「破損」が 46 件 (54.8%) と最も多く、次いで「腐食疲労等劣化」が 4 件 (4.8%) となっています。その他の要因では「地震災害等」が 6 件 (7.1%)、不明が 4 件 (4.8%) となっています (第 7 図及び第 6 表参照)。



第 7 図 その他の事故の発生要因と発生原因 (令和 7 年中)

第 6 表 施設区分別のその他の事故の発生要因と発生原因 (令和 7 年中)

施設区分	製造所	貯蔵所						取扱所				無許可施設	運搬車両	仮貯蔵仮取扱所	少量危険物貯蔵取扱所	指定可燃物貯蔵取扱所	高圧ガス関連施設	合計
		屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外	給油	販売	移送							
人的要因	維持管理不十分	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	誤操作	0	0	0	0	0	0	1	18	0	0	0	0	0	0	0	0	19
	操作確認不十分	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	操作未実施	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	監視不十分	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	0	1	0	0	1	0	1	20	0	0	0	0	0	0	0	0	23
物的要因	腐食疲労等劣化	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	設計不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	故障	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施工不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	破損	0	0	0	0	0	0	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	46
	小計	0	0	0	0	2	0	0	48	0	0	0	0	0	0	0	0	50
その他	放火等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交通事故	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	類焼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	地震等災害	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	6
	不明	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	4
	小計	0	0	0	0	1	0	0	8	0	0	2	0	0	0	0	0	11
合計	0	1	0	0	4	0	1	76	0	0	2	0	0	0	0	0	84	

#### 4 危険物施設の深刻度評価指標別の事故発生状況

消防庁が発出した「危険物施設における火災・流出事故に係る深刻度評価指標について（平成28年11月2日付け消防危第203号消防庁危険物保安室長通知）」及び「危険物施設における火災・流出事故に係る深刻度評価指標の一部改正について（令和2年12月7日付け消防危第287号消防庁危険物保安室長通知）」により、製造所等における火災事故及び流出事故の深刻度評価指標が、第7表及び第8表のとおり示され、これらの表で示される評価指標のうち、1つ以上で深刻度レベル1となる事故を「重大事故」と定義し、全ての評価指標で深刻度レベルが4となる事故を「軽微な事故」と定義しています。

**第7表 火災事故に係る深刻度評価指標**

＜人的被害指標＞		＜影響範囲指標＞※1		＜収束時間指標＞※2	
深刻度レベル	内容	深刻度レベル	内容	深刻度レベル	内容
1	死者が発生	1	事業所外に物的被害が発生	1	4時間以上
2	重症者または中等症者が発生	2	事業所内の隣接施設に物的被害が発生	2	2時間～4時間未満
3	軽症者が発生	3	施設装置建屋内のみに物的被害が発生	3	30分～2時間未満
4	軽症者なし	4	設備機器内のみに物的被害が発生	4	30分未満

※1 移動タンク貯蔵所が荷卸し先等の事業所内に在る場合、「事業所」を「当該移動タンク貯蔵所が在る事業所」と読み替える。  
 ※2 収束時間は事故発生から鎮圧までの時間とする。事故発生日時が不明の場合は、事故発見から鎮圧までとする。

**第8表 流出事故に係る深刻度評価指標**

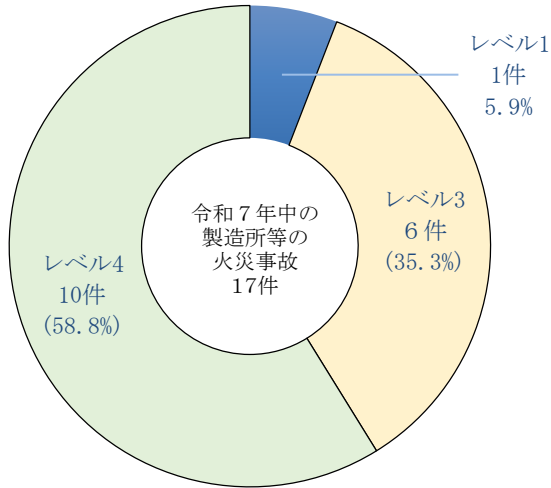
＜人的被害指標＞※1		＜流出被害指標＞※2、※4				
深刻度レベル	内容	内容	指定数量の倍数が10以上	指定数量の倍数が1未満～1以上	指定数量の倍数が1未満～0.1以上	指定数量の倍数が0.1未満
			深刻度レベル			
1	死者が発生	河川や海域に危険物が流出する等、事業所外へ広範囲に流出	1	1	2	3
2	重症者または中等症者が発生	事業所周辺のみ流出※3	1	2	3	3
3	軽症者が発生	事業所内の隣接施設へ流出	2	3	3	4
4	軽症者なし	施設装置建屋内のみで流出	3	3	4	4

※1 交通事故による死傷者は除く。  
 ※2 移動タンク貯蔵所が荷卸し先等の事業所内に在る場合、「事業所」を「当該移動タンク貯蔵所が在る事業所」と読み替える。  
 ※3 事業所敷地境界線から100m程度の範囲にとどまるもの。また、流出範囲の記載のない場合は事業所外に流出量100L程度。  
 ※4 指定数量の倍数は流出・漏えいした「危険物」の指定数量の倍数を合計した数。

当該深刻度評価指標に従い、令和7年中に発生した製造所等における火災事故及び流出事故を分析した結果は、以下のとおりです。

### (1) 火災事故の状況

令和7年中に発生した製造所等における火災事故 17 件を深刻度評価指標別にみると、重大事故は1件発生し、軽微な事故が10件（58.8%）発生しました（第8図及び第9表参照）。



第8図 深刻度評価指標別の火災事故発生状況

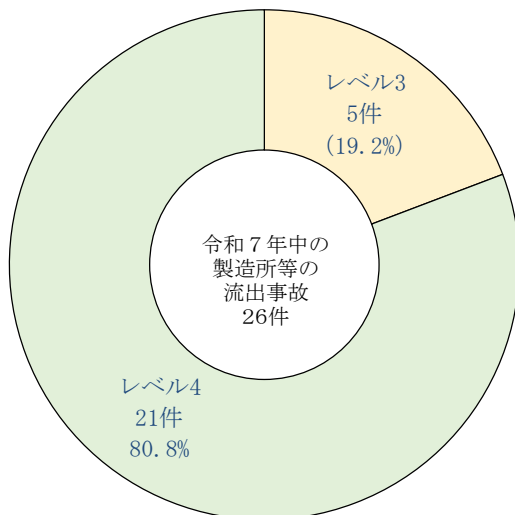
第9表 深刻度評価指標別の火災事故発生状況（施設区分別）

施設区分	深刻度評価指標※				重大事故の割合 (%)	軽微な事故の割合 (%)
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4		
給油取扱所	0	0	2	4	0.0	66.7
一般取扱所	1	0	4	6	9.0	54.5
<b>合計</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>6</b>	<b>10</b>	<b>5.9</b>	<b>58.8</b>

※各事故において、最もレベルが高い指標

### (2) 流出事故の状況

令和7年中に発生した製造所等における流出事故 24 件を深刻度評価指標別にみると、重大事故は発生せず、軽微な事故が21件（80.8%）発生しています（第9図及び第10表参照）。



第9図 深刻度評価指標別の流出事故発生状況

第10表 深刻度評価指標別の流出事故発生状況（施設区分別）

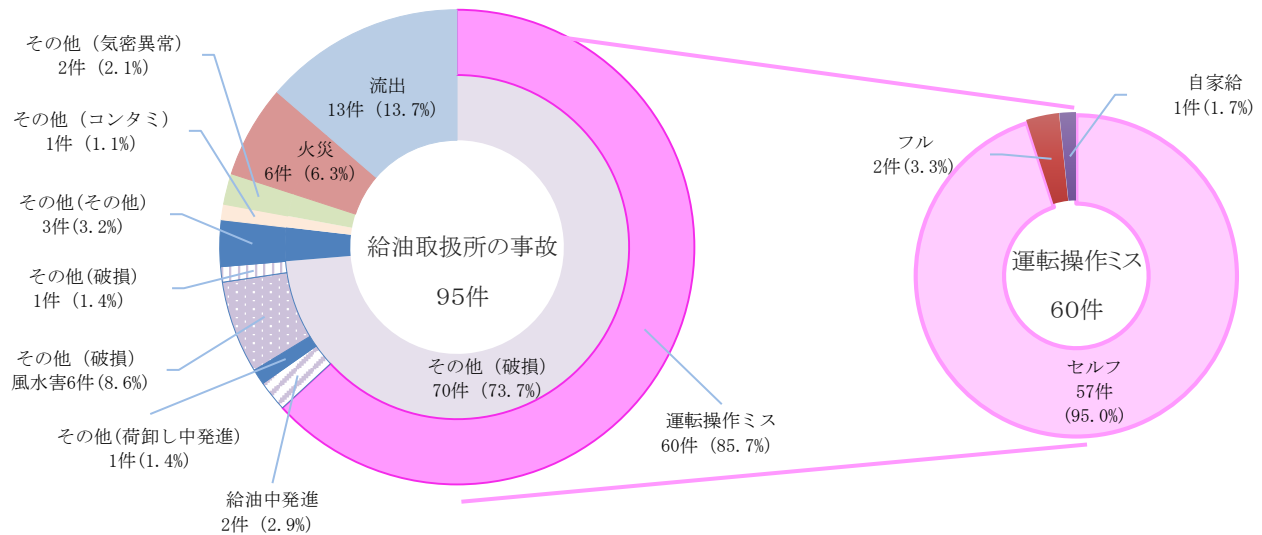
施設区分	深刻度評価指標※				重大事故の割合 (%)	軽微な事故の割合 (%)
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4		
屋内貯蔵所	0	0	0	1	0.0	100.0
屋内タンク貯蔵所	0	0	1	0	0.0	0.0
地下タンク貯蔵所	0	0	0	3	0.0	100.0
移動タンク貯蔵所	0	0	0	1	0.0	100.0
給油取扱所	0	0	4	9	0.0	69.2
一般取扱所	0	0	0	7	0.0	100.0
<b>合計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>5</b>	<b>21</b>	<b>0.0</b>	<b>80.8</b>

※各事故において、最もレベルが高い指標

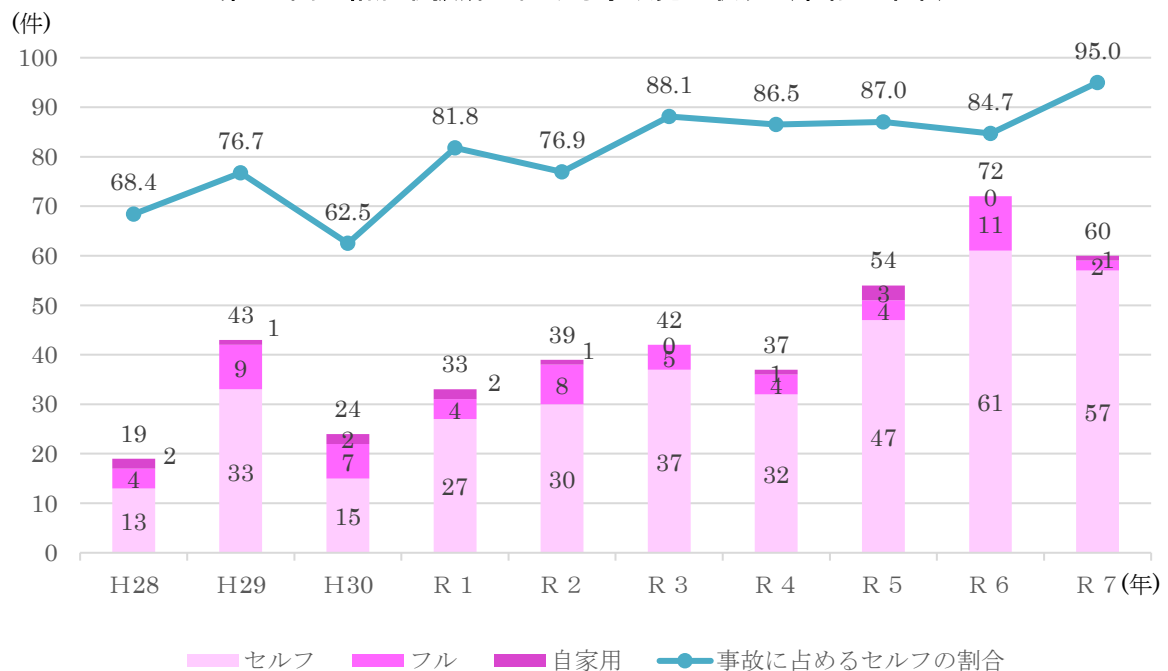
## 5 令和7年中の事故の傾向

### (1) 給油取扱所における車両の破損事故件数の傾向

給油取扱所における事故のうち破損が70件(73.7%)と7割以上を占めています。そのうち、車両の運転操作ミスによる破損事故が60件(85.7%、前年比12件減少)でした。運転操作ミス60件のうち、セルフスタンドで発生したものが57件(95.0%、前年比4件減少)であり、車両の運転操作ミスによる給油取扱所の破損事故発生件数は、近年横ばい傾向にあります(第10図、第11図参照)。



第10図 給油取扱所における事故発生状況 (令和7年中)



第11図 車両の運転操作ミスによる破損事故件数の推移 (最近10年)

車両の運転操作ミスによる事故 60 件の内訳をみると、車両区分では乗用車が 42 件 (70.0%)、トラック等大型車両が 17 件 (28.3%)、不明が 1 件 (1.7%) となっています (第 11 表参照)。

乗用車の事故発生状況をみると、施設進入時に発生した事故が 22 件 (52.4%)、施設退出時に発生した事故が 8 件 (19.0%)、その他の移動時に発生した事故が 12 件 (28.6%) となっており、施設進入時及びその他の移動をした際の事故が多くなっています。また、接触箇所別にみると、給油ノズル等が 13 件 (31.0%) と最も多く、次いでガードポール等が 7 件 (16.7%) となっています。

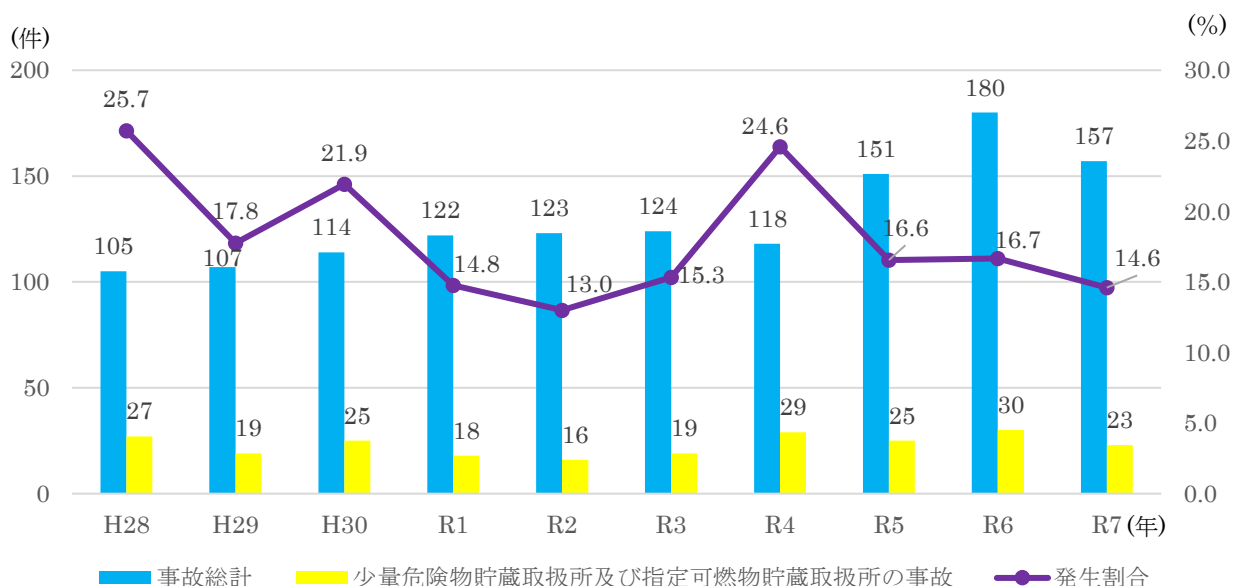
トラック等大型車両の事故発生状況をみると、施設進入時に発生した事故が 13 件 (76.5%)、施設退出時に発生した事故が 3 件 (17.6%)、その他の移動時に発生した事故が 1 件 (6.0%) となっています。また、接触箇所別にみると、給油ノズル等が 7 件 (41.2%) と最も多く、次いでガードポール等が 6 件 (35.3%) となっています。

**第 11 表 給油取扱所における車両の運転操作ミスによる破損事故発生状況**

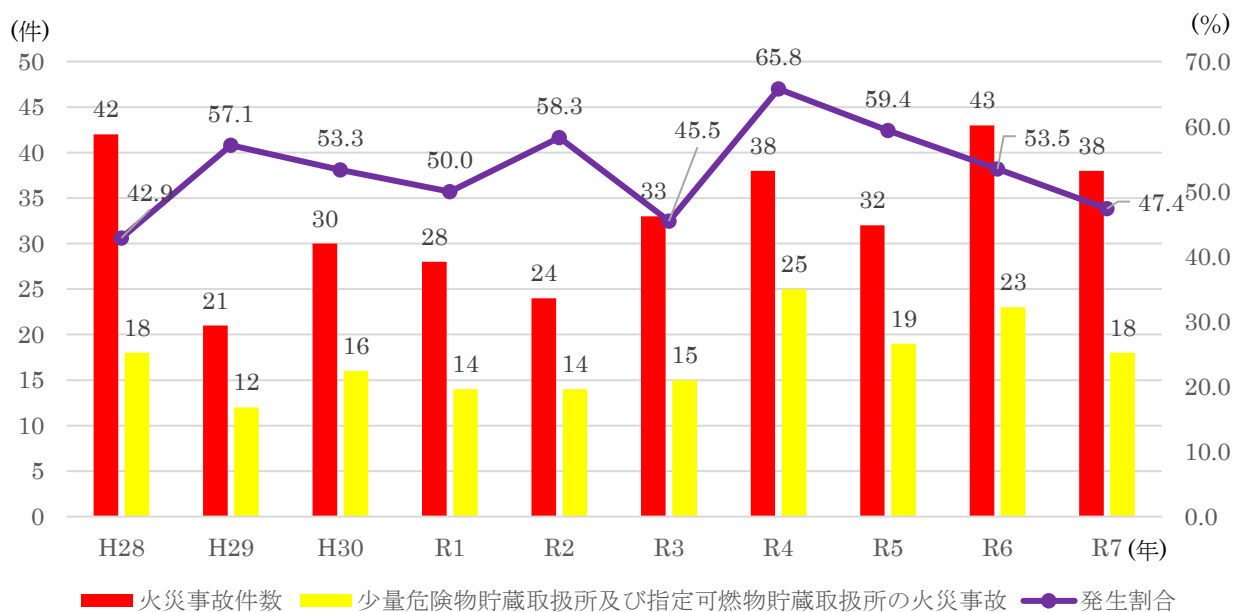
区分	車両区分 発生状況 接触箇所	乗用車				トラック等大型車				不明	合計
		施設 進入 時	施設 退出 時	その 他	小 計	施設 進入 時	施設 退出 時	その 他	小 計		
フル	固定給油 (注油) 設備本体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	給油ノズル等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ガードポール等	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1
	建築物・防火塀等	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1
	洗車機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャノピー等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	看板	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他の設備	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	0	0	1	1	1	0	0	1	0	2	
セーフ	固定給油 (注油) 設備本体	4	0	2	6	0	1	0	1	1	8
	給油ノズル等	12	1	0	13	6	1	0	7	0	20
	ガードポール等	4	1	2	7	5	0	0	5	0	12
	建築物・防火塀等	0	1	0	1	0	0	1	1	0	2
	洗車機	0	1	5	6	0	0	0	0	0	6
	キャノピー等	1	1	0	2	1	0	0	1	0	3
	看板	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	その他の設備	0	3	2	5	0	0	0	0	0	5
小計	22	8	11	41	12	2	1	15	1	57	
自家用	固定給油 (注油) 設備本体	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
	給油ノズル等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ガードポール等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	建築物・防火塀等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	洗車機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャノピー等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	看板	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他の設備	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	
合計	22	8	12	42	13	3	1	17	1	60	

## (2) 少量危険物貯蔵取扱所及び指定可燃物貯蔵取扱所における事故の発生状況の推移

少量危険物貯蔵取扱所及び指定可燃物貯蔵取扱所における事故は、23件と昨年と比較し7件減少しています。少量危険物貯蔵取扱所及び指定可燃物貯蔵取扱所における火災事故は、危険物施設等の火災事故38件中18件(47.4%)となっており、昨年と比較し5件減少しています。危険物関係施設の火災に対する少量危険物貯蔵取扱所及び指定可燃物貯蔵取扱所の火災の割合は減少傾向です。(第12図、第13図参照)。



第12図 少量危険物貯蔵取扱所及び指定可燃物貯蔵取扱所の事故発生推移 (最近10年間)



第13図 少量危険物貯蔵取扱所及び指定可燃物貯蔵取扱所の火災事故発生推移 (最近10年間)

## 6 異常現象の発生状況

異常現象とは、石油コンビナート等災害防止法（昭和 50 年法律第 84 号）第 23 条に規定される特定事業所における出火、石油等の漏えいその他の異常な現象をいいます。

平成 30 年 8 月に東京国際空港地区が石油コンビナート等特別防災区域に指定されたことに伴い、当該区域に所在する特定事業所において、その事業の実施を統括管理する者は、当該特定事業所における異常現象の発生について、通報しなければならないこととなりました。

令和 7 年中に異常現象は 2 件発生しています。

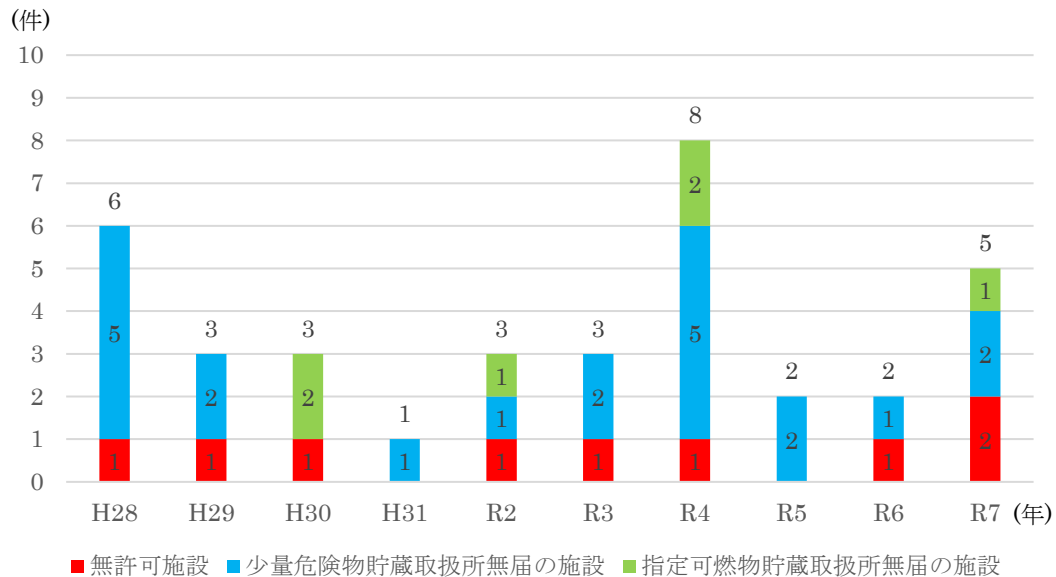
第 12 表 令和 7 年中に発生した異常現象

施設区分	覚知月	事故種別	事故概要
給油取扱所	1 月	異常現象 (流出)	航空機給油取扱所において、作業員がタンクローリーから航空機へ航空燃料を給油していたところ、航空機機体下のエアベントから航空燃料約 50 リットルが流出したもの。
給油取扱所	4 月	異常現象 (火災)	航空機給油取扱所において、着陸した航空機のメインタイヤに付帯したディスクブレーキ内の過剰に塗布されたブレーキグリス若干が焼損した。

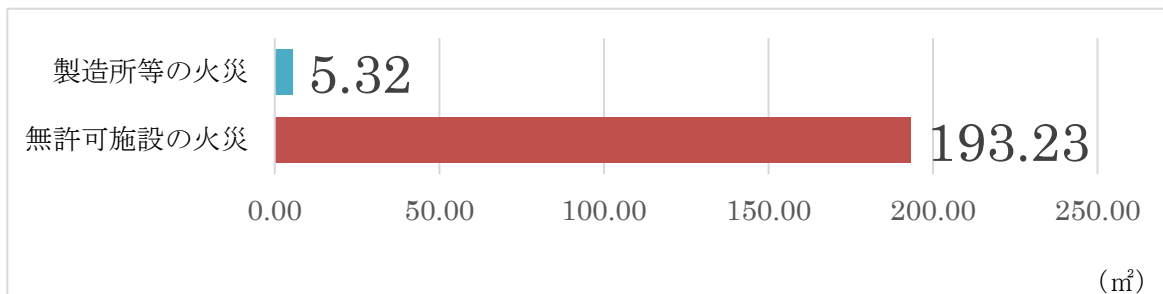
## 7 無許可・無届施設における火災

令和7年中の無許可施設並びに少量危険物貯蔵取扱所及び指定可燃物貯蔵取扱所無届の施設（以下「無許可・無届施設」という。）で発生した火災件数は5件でした。直近10年間では、令和4年及び平成28年に次いで多い件数です。

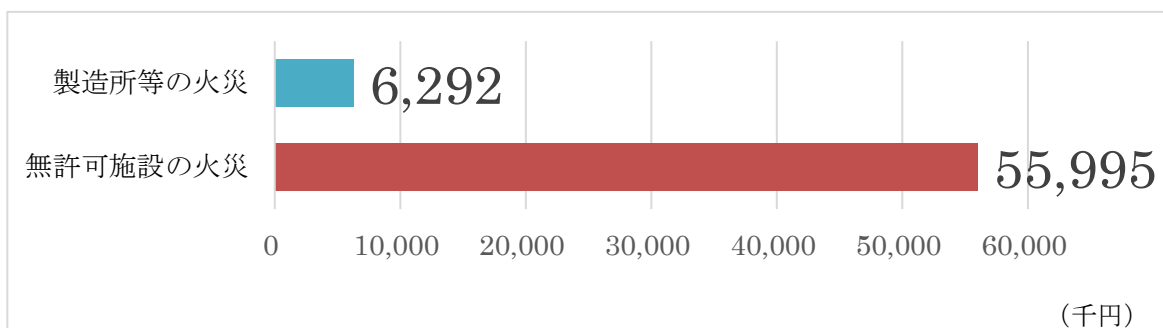
また、無許可施設で発生した火災と製造所等で発生した火災の平均焼損面積並びに平均損害額は、無許可施設の火災の平均値が製造所等の火災の平均値を大きく上回っています。（第14図、第15図及び第16図）



第14図 無許可・無届施設における火災件数の推移（最近10年間）



第15図 無許可施設で発生した火災の平均焼損面積の比較（平成28年から令和6年まで）



第16図 無許可施設で発生した火災の平均損害額の比較（平成28年から令和6年まで）

## 8 全事故の概要等

### (1) 火災事故 (38 件)

No	覚知月	施設区分	死傷者	概要・原因・被害状況
1	1 月	一般取扱所	死者 0 人 負傷者 0 人	工場において、機械設備 1 台が焼損した。工場内の通路を挟んで向かい側に設置されている自動溶接機の火花が当該機械設備の下部にあったウエスに着火した。
2	1 月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0 人 負傷者 0 人	車両が焼損した。非正規品のバッテリーを使用し、また当該バッテリーを固定するバンドが劣化により切れ、車両の振動等でバッテリーが動きバッテリーのプラスケーブルが車両のボディと接触した状態が継続した結果、ケーブル被覆が損傷し、車両ボディ間で短絡したため出火した。
3	1 月	一般取扱所	死者 0 人 負傷者 0 人	ごみ処理場において、ごみ 8 立方メートル及びごみ圧縮機の内壁若干が焼損した。不燃ごみを破砕処理する際に、不燃ごみに混在していた充電式電池を搭載している小型家電類を破砕したため、リチウムイオン電池が内部短絡し、周囲のごみに着火した。
4	1 月	指定可燃物 貯蔵取扱所	死者 0 人 負傷者 0 人	工場において、集塵ダクト 2 メートル及びごみ若干が焼損した。製本工程の裁断時に発生する紙屑がダストボックスに吸い込まれず、裁断カッター周辺に溜まり、紙屑が裁断カッターの高速回転による摩擦熱により発火した。
5	1 月	一般取扱所	死者 0 人 負傷者 0 人	工場において、バッテリー駆動式荷物運搬車の充電器が焼損した。充電器の基盤がショート故障し、出火した。
6	2 月	給油取扱所 (フル)	死者 0 人 負傷者 0 人	給油取扱所において、車両 1 台が焼損した。給油中の車両下部から出火したものであり、出火原因は不明。
7	2 月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0 人 負傷者 0 人	ガソリン若干が焼損し、給油ノズル金属部が変色した。利用客が給油途中でガソリン添加剤を入れようと給油ノズルを給油口から引き抜いた際にガソリンペーパーに引火し、出火した。
8	3 月	少量危険物 貯蔵取扱所	死者 0 人 負傷者 0 人	少量危険物貯蔵取扱所兼指定可燃物貯蔵取扱所である産業廃棄物の中間処理施設において火災が発生した。テープで絶縁処理した充電式のリチウムイオン電池を金属製のペール缶に入れて保管していたところ、何らかの要因で内部短絡し出火した。
9	3 月	指定可燃物 貯蔵取扱所	死者 0 人 負傷者 0 人	
10	4 月	指定可燃物 貯蔵取扱所	死者 0 人 負傷者 0 人	輻射熱によりダンボールが焼損した。炭を燃やして灰を作る作業場において高温になった炭を火鉢に移し、炭が灰になるまで火鉢の中で放置する工程を行っていた。担当者が休憩のために現場を離れた際に、火鉢の輻射熱により付近のダンボールに着火した。
11	4 月	一般取扱所	死者 0 人 負傷者 0 人	ごみ処理施設において、ゴミ 1 立方メートルが焼損した。ごみを破砕機により破砕し、ピットに集積する作業を行っていたところ、破砕したごみから出火したものであるが、出火原因は不明。
12	4 月	給油取扱所 (その他)	死者 0 人 負傷者 0 人	航空機給油取扱所において、着陸した航空機のメインタイヤに付帯したディスクブレーキ内の過剰に塗布されたブレーキグリス若干が焼損した。
13	4 月	指定可燃物 貯蔵取扱所	死者 0 人 負傷者 0 人	RPF (古紙と廃プラスチック類を原料とした固形燃料) 工場において、RPF 成形機ユニット 1 台が焼損した。
14	4 月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0 人 負傷者 0 人	利用客が車両に給油中、給油ノズル先端に火炎を確認したため、給油ノズルを抜いたところ、着火状態のガソリンが飛散した。利用客は給油前に静電気除去シートに触れていたが、その後にタッチパネル操作等の作業を行ったため、静電気が再帯電し、静電気火花により引火したと推定される。
15	4 月	少量危険物 貯蔵取扱所	死者 0 人 負傷者 0 人	研究室から出火し、振とう培養器 1 台を焼損した。出火原因は、インバーターのコンデンサ基板上に設置されているセメント抵抗素子に正常作動時より長時間にわたり電流が流れたことにより、同素子が発熱し、近くに設置されていた樹脂製の電子部品等の可燃物に着火し、出火した。
16	5 月	一般取扱所	死者 0 人 負傷者 0 人	工場において、ローリフト若干が焼損した。ローリフトが長期間に渡って使用されたことにより当該ローリフト内の電磁接触器が経年劣化により接点溶着し、接点間の接触部が過熱し外装の合成樹脂ケースに着火した。

No	覚知月	施設区分	死傷者	概要・原因・被害状況
17	5月	少量危険物貯蔵取扱所	死者 0人 負傷者 1人	少量危険物貯蔵取扱所兼指定可燃物貯蔵取扱所である廃棄物処理施設において、1,163平方メートルが焼損した。破砕機に投入された廃棄物から出火し、ベルトコンベア及び他の廃棄物を介して建物全体に延焼した。
18	5月	指定可燃物貯蔵取扱所	死者 0人 負傷者 0人	少量危険物貯蔵取扱所兼指定可燃物貯蔵取扱所であるリサイクルセンターにおいて、ごみくず若干が焼損した。リサイクルに伴い廃棄物を破砕していた際に出火した可能性が考えられるが、火源となるものが発見できないことから出火原因は不明。
19	5月	少量危険物貯蔵取扱所	死者 0人 負傷者 0人	無許可施設の工場において、50平方メートルが焼損した。従業員が誤ってこぼしたシンナーから発生した可燃性蒸気が、付近に設置された乾燥炉のモーターから発生した火花に引火した。
20	5月	指定可燃物貯蔵取扱所	死者 0人 負傷者 0人	自走不可の二階建て台船内において、二階作業場の一部及び収容物が焼損した。二階作業場内のテーブルトップのトラッキングにより出火した。なお、台船内では、危険物を無許可で貯蔵していた。
21	6月	無許可施設	死者 0人 負傷者 1人	作業所において、外壁等47平方メートル及び集塵機のVベルト4本が焼損した。集塵機のモーターとファンとの間に取り付けられていたVベルトが経年劣化により切断、付近のおがくずに着火し出火した。
22	6月	無許可施設	死者 0人 負傷者 0人	作業所において、建築物の外壁50平方メートル、木材64立方メートル及び隣地住宅内の絨毯等が焼損した。従業員が作業中に木材から火炎が立ち上がっているのを発見した。作業所の煙突から出火箇所である木材に火の粉が飛んで着火した可能性が考えられるが、出火原因は不明。
23	7月	指定可燃物貯蔵取扱所	死者 0人 負傷者 0人	工場において、制御盤内の電磁接触器が焼損した。電磁接触器に接続されている端子と接続ネジの間で何らかの原因により接触部過熱による発熱が生じ出火した。
24	7月	指定可燃物貯蔵取扱所	死者 0人 負傷者 0人	実験等を行う一般取扱所において、遠心分離機が焼損した。出火原因は、遠心分離機内のコンデンサが経年による絶縁劣化により発熱し出火した。
25	7月	一般取扱所	死者 0人 負傷者 0人	工場において、換気設備の排気フィルター2平方メートルが焼損した。塗装ブースにおいて、従業員が火気使用時に必要となる手続きを行うことなく、鉄製の可搬式作業台をエアグラインダーにより切断したところ、発生した火花が換気設備の排気フィルターに飛散し出火した。
26	7月	一般取扱所	死者 0人 負傷者 0人	一般取扱所において、排ガス分析装置が焼損した。通常時は1時間運転するが、火災当日は3時間運転していた。車両の排気ガスを分析装置により分析評価試験中に、当該装置が過熱され火災が発生した。
27	8月	一般取扱所	死者 0人 負傷者 0人	電気ケトル及びエアコンを接続したテーブルトップのコードが焼損した。テーブルトップは過電流の状態で使用され、また、コードの屈曲部分に負荷がかかった状態で継続使用したことで屈曲部分が発熱し出火した。
28	8月	一般取扱所	死者 0人 負傷者 0人	非常用発電設備により危険物を消費する一般取扱所において、非常用電源の配線及び段ボール若干が焼損した。出火原因は不明。
29	8月	給油取扱所(フル)	死者 0人 負傷者 1人	研究施設において、実験器具等が焼損した。試薬の実験で使用した化学物質が付着した紙を、洗浄し廃棄用段ボール箱内に捨てた際に、化学反応により発熱し出火した。
30	9月	一般取扱所	死者 0人 負傷者 0人	高架下の塗装工事現場において、大型発電機2機、枕木14本等が焼損した。なお、当該工事現場では、危険物の届出をせずに貯蔵等していた。出火原因は不明。
31	9月	少量危険物貯蔵取扱所	死者 0人 負傷者 0人	公園内で木くずが焼損した。なお、当該場所では、指定可燃物貯蔵取扱所の届出をしていなかった。木くずは、公園内のストックヤードで保管していた落ち枝を夏頃にチップ化し、約2メートル山状に堆積させていた。出火原因は、木くず内部で発酵による熱が発生し、堆積により放熱が妨げられ蓄熱が進んだため出火したものと推定される。
32	11月	少量危険物貯蔵取扱所(届出無)	死者 0人 負傷者 0人	
33	11月	指定可燃物貯蔵取扱所(届出無)	死者 0人 負傷者 0人	

No	覚知月	施設区分	死傷者	概要・原因・被害状況
34	12月	運搬車両	死者 0人 負傷者 0人	乗用車のトランクルーム内に保管していた脱脂剤が焼損したものの。出火した脱脂剤（第四類第一石油類（非水溶性））をバイク用バッテリーと共にトランクルームで運搬していたところ、脱脂剤の運搬容器（金属製）とバッテリー端子が接触して短絡し、脱脂剤の運搬容器に約1センチメートルの穿孔が生じた。また、短絡時の火花により脱脂剤の可燃性蒸気に引火したと推定される。
35	12月	一般取扱所	死者 0人 負傷者 0人	廃棄物処理施設において、ごみピット内のごみくずが出火したものの。出火した貯留ピットは、受入ピットで運搬車から排出されたごみくずを受け入れた後、一時的に保管し、最終的な焼却炉につながるごみホッパーへ投入するためのピット。何らかの火源により貯留ピット内のごみくずに燃え移り、クレーン及び放水銃のケーブル並びにごみくず200立方メートルを焼損した。
36	12月	少量危険物貯蔵取扱所（届出無）	死者 0人 負傷者 0人	ガスハンドトーチの炎がシンナーの可燃性蒸気に引火したものの。塗料の剥離作業のため、シンナー及びガスハンドトーチを使用していた。剥離作業を行っていた者が着用していた軍手にはシンナーが浸透しており、ガスハンドトーチの炎が着火した。なお、本件は、レンタルボックス内で塗料を無届出で貯蔵していた。
37	12月	少量危険物貯蔵取扱所	死者 0人 負傷者 0人	古紙回収事業を行っている事業所で、プレス機1台、キュービクル変電設備1台、ごみ若干が焼損したものの。施設内では、回収した古紙（紙くず）をプレス機で圧縮し、運搬するためのサイズに成形していた。古紙（紙くず）等は指定可燃物貯蔵取扱所として、また、プレス機に用いる第四類第四石油類（潤滑油）はタンクで貯蔵（少量危険物貯蔵取扱所）していた。営業時間外で施設内は無人の状態で発生しており、出火原因は不明。
38		指定可燃物貯蔵取扱所		

## (2) 流出事故 (35 件)

No	覚知月	施設区分	死傷者	概要・原因・被害状況
1	1月	運搬車両	死者 0人 負傷者 0人	運搬車両である自転車に積載したプラスチック製容器から灯油約3.5リットルが流出した。給油取扱所(セルフ)において、18リットルのプラスチック製容器2個に灯油を注油し、自転車の前かごへ1個入れ、荷台には紐で1個を固定し帰宅していた際、自転車のバランスを崩して転倒し、前かごに収納したプラスチック製容器が路上に落下したことにより、容器が破損し流出した。
2	1月	給油取扱所(自家用)	死者 0人 負傷者 0人	経年劣化により固定給油設備内の可とう管継手の樹脂製パッキンに穴が開き、隙間から微量のガソリンが流出した。
3	2月	地下タンク貯蔵所	死者 0人 負傷者 0人	通気管から重油約200リットルが流出した。移動タンク貯蔵所から地下貯蔵タンクへ荷卸し中に地下貯蔵タンクの液面計の表示が動かなくなったが、立合者は、地下貯蔵タンクから燃料小出槽への送油が行われているため表示が動かなくなっていると思い、荷卸し作業を継続したところ、地下貯蔵タンクの容量を超え、通気管の先端から流出した。
4	2月	給油取扱所(自家用)	死者 0人 負傷者 0人	軽油約1リットルが流出した。懸垂式固定給油設備の給油ホース基部に経年劣化による亀裂が生じたことにより流出した。
5	2月	移動タンク貯蔵所	死者 0人 負傷者 0人	移動タンク貯蔵所から道路上に重油約10リットルが流出した。タンク上部の注入口の蓋が完全に閉鎖されていない状態で走行したため、タンク内の重油が坂道の傾斜及び振動により防護枠内に溢れ、防護枠に設けられた雨水排出用配管のドレンバルブが開放されていたため路上へ流出した。
6	3月	地下タンク貯蔵所	死者 0人 負傷者 0人	地下タンク貯蔵所の地下埋設配管の穿孔から重油若干が流出した。地下タンク貯蔵所の点検を実施したところ、地下埋設配管で気密異常が確認され、後日掘削して調査を実施したところ、地下埋設配管に穿孔が確認された。
7	3月	屋内貯蔵所	死者 0人 負傷者 0人	高圧変圧器を転倒させたことにより絶縁油0.5リットルが流出した。別の変電所から高圧変圧器2基(絶縁油各18リットルを収納)を台車で搬送している際に誤って転倒させ、絶縁油が流出させた。
8	3月	給油取扱所(セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	軽油若干が流出した。利用客が給油後、右折しようとしたところ、軽油の給油ホースと接触したことにより安全継手が離脱し、安全弁が機能したものの軽油若干が流出した。
9	4月	一般取扱所	死者 0人 負傷者 0人	発電所において、A重油10リットルが流出した。発電設備の内燃機関へ燃料を噴射するポンプと燃料配管の接続に使用するボルトを、想定を上回る締付け力で取り付けたため、ポンプと燃料配管の間に配置したガスケットの一部が破損し、重油が流出した。
10	5月	給油取扱所(自家用)	死者 0人 負傷者 0人	給油ホースと給油ノズルの接続部付近からガソリン若干が流出した。何らかの原因により当該接続部が破損したことにより流出したと推定される。
11	5月	少量危険物貯蔵取扱所	死者 0人 負傷者 0人	作業所内で使用するエンジンオイル及び廃油を貯蔵する少量危険物貯蔵取扱所において、廃油が流出した。廃油を貯蔵するタンクの油面警報装置を停止した状態でタンク容量を超える量の廃油を送油したため、通気管の先端から廃油が流出した。
12	5月	少量危険物貯蔵取扱所	死者 0人 負傷者 0人	地下2階に設置された少量危険物貯蔵取扱所(非常用発電設備)の配管から重油200リットルが流出した。非常用発電設備への送油配管の可とう管継手から漏えいし、配管ピット内に滞留したが、配管ピットにひび割れた箇所があり、当該箇所から地下3階の風道に流出した。
13	6月	給油取扱所(フル)	死者 0人 負傷者 0人	給油ノズル及び懸垂式の固定給油設備等が破損したことにより軽油1リットルが流出した。利用客が10トン車に給油した後、道路に出ようとした際、車両の荷台が懸垂式固定給油設備の給油ノズルに引っ掛かったが、そのまま走行したため給油ノズル及び懸垂式の固定給油設備等が破損したことにより流出した。
14	6月	給油取扱所(自家用)	死者 0人 負傷者 0人	給油ホースのピンホールからガソリン若干が流出した。給油ホースが経年劣化したことによりひび割れ及びピンホールが生じたため、当該給油ホース先端の給油ノズルを握った際に当該ピンホールからガソリンが流出した。

No	覚知月	施設区分	死傷者	概要・原因・被害状況
15	6月	一般取扱所	死者 0人 負傷者 0人	発電所の発電機からA重油が30リットル流出した。運転中の発電設備（一般取扱所）において、内燃機関へ燃料を噴出する燃料噴出ポンプと燃料供給配管を接続する部品との接続部に設置したガスケットの金属部分が疲労破壊し流出した。
16	6月	一般取扱所	死者 0人 負傷者 0人	五方弁と配管接続部のガスケット及び開閉弁のパッキンの経年劣化により軽油約0.1リットルが流出した。軽油を供給する配管に設けられた五方弁と当該五方弁の一次側配管との接続部から軽油が流出し、当該流出箇所的一次側直近の開閉弁が閉鎖されているにもかかわらず流出が継続した。流出原因は、五方弁と配管接続部のガスケット及び開閉弁のパッキンが経年劣化による。
17	6月	少量危険物貯蔵取扱所	死者 0人 負傷者 0人	屋外に設置した貯蔵タンク（灯油）から燃料を供給しボイラーにより消費する少量危険物貯蔵取扱所において、灯油が150リットル程度流出した。何らかの原因でタンク下部に直径3ミリメートル程度の穴が空いたため、流出した。
18	6月	一般取扱所	死者 0人 負傷者 0人	工場において、第四類第三石油類（水溶性）に該当する不凍液の原液約100リットルが流出した。送油配管のフランジ接合部分に用いていたゴム製パッキンが経年劣化したことにより当該接合部分から流出した。
19	6月	一般取扱所	死者 0人 負傷者 0人	工場において、作動油36リットルが流出した。油圧リフトへ送油するためのホースが架台と接触していたため、当該油圧リフトを稼働させる際に生じる振動により接触部が摩擦を繰り返されたことで、ホースの肉厚が薄くなり送油時の圧力に耐えきれず穿孔が生じたため流出した。
20	6月	給油取扱所（セルフ） ※一部フル	死者 0人 負傷者 0人	トラックへの給油中に軽油が約530リットル流出した。トラックへの給油をフルサービスで行っていた従業員が、給油ノズルにオートストップ機能がついていたことから、レバーを給油状態で固定し給油口に挿入して、他の顧客の対応を行ったが、オートストップ機構の部品（センサーチューブ）が脱落していたことにより、オートストップが機能せず、従業員が流出に気づくまでの間軽油の流出が継続した。
21	7月	運搬車両	死者 0人 負傷者 0人	容器から第六類酸化性液体である過酸化水素が約5リットル流出した。容器をクレーンにより貨物列車に積載しようとした際、容器上部のハッチの隙間から過酸化水素が流出した。
22	7月	地下タンク貯蔵所	死者 0人 負傷者 0人	ギヤポンプから軽油約1リットルが流出した。当該地下タンク貯蔵所から一般取扱所に軽油を送油するギヤポンプにおいて、メカニカルシールにバネの縮み及びカーボン部分の摩耗が生じるとともに、当該メカニカルシールのカーボン部分に接するメカニカルシールカバーに固定されたセラミック部分が摩耗したことにより、本来生じない間隙が生じたため流出した。
23	7月	給油取扱所（自家用）	死者 0人 負傷者 0人	固定給油設備内の逆止弁のパッキンからガソリン若干が流出した。固定給油設備内の逆止弁のセパレーターのゴム製パッキンが経年劣化により流出した。
24	7月	給油取扱所（フル）	死者 0人 負傷者 0人	給油口に給油ノズルが挿入された状態で車両を発進させたため給油ノズルが破損し、ガソリン1リットルが流出した。当該車両はカーシェアのものであり、給油時には「給油カード」を利用客が従業員に渡し、カード返却後に給油を行うが、利用客は給油カードが返却されたため、通常のクレジットカード決済と同様に給油が終了したものと勘違いし、車両を発進させた。
25	8月	少量危険物貯蔵取扱所（届出無）	死者 0人 負傷者 0人	屋外のタンクから灯油約340リットルが流出した。何らかの原因でタンク下部に約5センチメートルの亀裂が生じ、流出した。なお、本件は少量危険物貯蔵取扱所の届出をせずに灯油を貯蔵していた。
26	8月	一般取扱所	死者 0人 負傷者 0人	工場内の危険物施設（油圧リフター）の地下埋設配管から、作動油（第四類第四石油類）約300リットルが流出した。流出が考えられる箇所は、建屋の躯体に覆われ掘削不能であったが、掘削可能な地下埋設配管を調査した結果、全体的に著しく腐食していたことから、地下埋設配管が経年劣化により破損し流出したものと推定される。

No	覚知月	施設区分	死傷者	概要・原因・被害状況
27	8月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 1人	利用客が自らの子供に給油させガソリン約2リットルが流出した もの。利用客が自らの子供に給油をさせていた際に、給油ノズルのレ バーを握ったままの状態に給油ノズルが給油口から抜け、ガソリンが 子供にかかったもの。
28	8月	屋内タンク 貯蔵所	死者 0人 負傷者 1人	冷温水発生装置に灯油を供給する屋内タンク貯蔵所の送油配管が 破損し灯油3リットルが流出した。敷地内に存する車両のタイヤ の保管場所からタイヤを移動するため、約3メートル間隔で人員を配 置しバケツリレーの要領でタイヤを転がしていたが、その際にタイヤ が送油配管に接触して破損し、灯油が流出した。なお、関係者1名が 当該流出を手で押さえて止めようとした際に、灯油の飛沫が目に入り 負傷した。
29	8月	給油取扱所 (フル)	死者 0人 負傷者 0人	レンタカーへの給油を行うために来店した利用客が、給油作業が完 了したものと誤認し、給油ノズルが車両の給油口に挿入された給油中 の状態に車両を発進させたため、固定給油設備の安全継手は離脱した が、何らかの原因により安全継手より一次側のホースが破損し、約6 0リットルのガソリンが流出した。
30	9月	少量危険物 貯蔵取扱所	死者 0人 負傷者 0人	屋内で危険物を貯蔵する少量危険物貯蔵取扱所において、第四類第 一石油類に該当するシンナーと第四類第二石油類に該当する塗料が 混ざった廃油が約2リットル流出した。激しい降雨により当該少 量危険物貯蔵取扱所が床上浸水したことにより、廃油が約2リットル 入った一斗缶が水に浮き、倒れたため流出した。
31	9月	給油取扱所 (自家用)	死者 0人 負傷者 0人	ダンプカーを給油レーンに進入しようとして後退させた際に、車両後部 が固定給油設備の地上配管に衝突、軽油500リットルが流出したも の。流出した軽油は、油分離装置(容量1,000リットル)に収容 されたため、給油取扱所敷地外への流出はなかった。
32	11月	運搬車両	死者 0人 負傷者 0人	廃油をドラム缶に入れて回収し、トラックの荷台に積載し運搬して いたが、下りカーブ付近で、荷台のドラム缶が転倒し、廃油150リ ットルが流出した。
33	12月	運搬車両	死者 0人 負傷者 0人	原動機付き自転車の足元に灯油を収納したプラスチック製容器(容 量18リットル)を、ゴムバンドで固定して搬送していたところ、容 器を地面に落下させ灯油若干を流出させたもの。
34	12月	給油取扱所 (フル)	死者 0人 負傷者 0人	大型トレーラーに軽油を給油中に、車両の燃料タンクに穴が開いて おり、その穴から軽油約130リットルが流出した。
35	12月	一般取扱所	死者 0人 負傷者 0人	重油配管の接続フランジのパッキン部分から重油約0.2リットル が流出した。流出した原因は、フランジのパッキンの劣化若しくは フランジの緩みと考えられる。

## (3) その他の事故 (84 件)

No	覚知月	施設区分	死傷者	概要・原因・被害状況
1	1月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により給油ノズルが破損した。利用客が給油レーンに進入しようとして前進させた際に、乗用車の前部が給油ノズルに接触し破損した。
2	1月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 1人	車両の接触により固定注油設備等が破損した。利用客が停車中の2台の車両の間を後退で抜けようとした際に、ブレーキとアクセルを踏み間違えて、固定注油設備等に接触し破損した。
3	1月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	事務所に設置してある固定給油設備の分電盤内の感震装置が何らかの理由により故障した。
4	1月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	乗用車に給油後、車両を右に寄せようとしたときに第五種消火設備(消火器)の収納箱に衝突した。箱のふたを損傷したもので、消火設備に異常はない。
5	1月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	運転手が給油取扱所に入る際に運転を誤り、固定給油設備前のガードポールに衝突した。後退後に更に運転を誤り、隣接する固定給油設備前のガードポールに衝突。その後、後退し給油取扱所の防火扉と接触し、破損させた。
6	1月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	洗車機の遮断機の柱を破損した。利用客が、洗車機に向かって乗用車を前進させた際に、右前方ピラー付近が洗車機の遮断機の柱に接触し破損した。
7	1月	屋内貯蔵所	死者 0人 負傷者 1人	屋上に設置されている室外機の点検整備を実施中に作業員が転落し負傷した。当人が後方に下がった時、陸屋根の端部パラペットに足を取られ、後方地面に転落した。
8	2月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により固定給油設備の給油ノズルの受け台が破損した。給油後に大型バスの右オーバーハングが固定給油設備の給油ノズルの受け台部に接触し破損した。
9	2月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	給油しようとした軽貨物車が給油レーンに停止し、運転席ドアを開放した際に、固定給油設備の燃料キャップ置き場に接触し破損した。
10	2月	給油取扱所 (フル)	死者 0人 負傷者 0人	定期点検(漏れの点検)時にS F二重殻地下貯蔵タンクの検知層に気密異常があった。
11	2月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により給油ノズルの受け台が破損した。利用客が給油レーンに後退して進入しようとした際にハンドル操作を誤り乗用車の右後方が固定給油設備の給油ノズルの受け台に接触し破損した。
12	2月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	利用客の運転する乗用車が固定給油設備の給油ノズルに接触し、給油ノズルが破損した。
13	2月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により給油ノズルが破損した。利用客が2トントラックを給油レーンに後退させ進入しようとした際に、車両右後方が給油ノズルに接触し破損した。
14	2月	地下タンク 貯蔵所	死者 0人 負傷者 0人	地下タンク貯蔵所において気密異常が発生した。定期点検に伴い、漏れの点検を行ったところ気密漏れの疑いがあったため、後日再度漏れの点検を行ったところ、地下埋設配管(送油配管)に気密異常が確認された。
15	3月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	利用客が給油レーンに進入しようとして2tトラックを後退させた際に、バンパーステップが固定給油設備の衝突防止用パイプに衝突した。
16	3月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両から軽油50リットルが流出した。従業員が軽油の給油中に燃料タンクから軽油が漏れていることに気が付いたため給油の継続を断ったが、利用客がかたくなに給油を続けた。
17	3月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により給油ノズルの受け台が破損した。利用客が給油を終えた後、施設から出るために3トントラックを一度後退させてから前進したところ、トラックの一部が給油ホースに引っかかり、給油ノズルが引っ張られたことにより給油ノズルの受け台が破損した。
18	3月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	クレーン車の接触により防火扉が破損した。給油取扱所の南側で別建物の新築工事を行っていたクレーン車が後退した際に防火扉に接触し破損した。

No	覚知月	施設区分	死傷者	概要・原因・被害状況
19	3月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により給油ノズルが破損したものの。利用客が乗用車に給油するため停車した際に、ハンドル操作を誤り給油ノズルに接触し破損した。
20	4月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により衝突防止装置が破損したものの。利用客が大型トレーラーの給油をするため給油レーンに進入する際に内輪差によりガードポールに接触し破損した。
21	4月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により洗車機及び防火塀が破損したものの。利用客がブレーキとアクセルを踏み間違え洗車機に接触し、その衝撃により洗車機が防火塀に接触し破損した。
22	4月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により給油ノズルが破損したものの。洗車待ちの軽乗用車が後退した際、給油ノズルに接触し破損した。
23	4月	給油取扱所 (自家用)	死者 0人 負傷者 0人	重機の接触により固定給油設備等が破損したものの。油圧ショベルへの給油を終え、旋回したところ、固定給油設備等に接触し破損した。
24	4月	給油取扱所 (フル)	死者 0人 負傷者 0人	固定給油設備が破損したものの。強風により固定給油設備が倒れたものと推定される。
25	4月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により洗車機の遮断機が破損したものの。利用客が停車中にアクセルとブレーキを踏み間違え、アクセルを踏み込んだため洗車機の遮断機に接触し破損した。
26	4月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触によりキャノピーの柱が破損したものの。利用客が給油を終えた後、通常とは異なる経路で道路に進入しようとした際に、ハンドル操作を誤りキャノピーの柱に接触したものの。
27	4月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により防火塀が破損したものの。利用客が給油を終え敷地外へ出ようとした際にアクセルとブレーキを踏み間違い接触し破損した。
28	5月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により給油ノズルが破損したものの。利用客が給油レーンに進入しようとした際、ハンドル操作を誤り給油ノズルに接触し破損した。
29	5月	移動タンク 貯蔵所	死者 0人 負傷者 1人	トンネル内において、移動タンク貯蔵所が乗用車に追突したものの。危険物の流出及び危険物の規制がかかる箇所破損はない。
30	6月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により給油取扱所において洗車機が破損したものの。利用客が給油を終え退店しようとした際、ハンドル操作を誤り洗車機に接触し破損した。
31	6月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により給油ノズルが破損したものの。利用客は、10トントラックの給油を行うため後退しながら固定給油設備に接近した際、給油ノズルに接触し破損した。
32	6月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により給油ノズルが破損したものの。利用客がダンプカーの給油を行うために給油レーンに進入した際に給油ノズルに接触し破損した。
33	6月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触によりガードポール、固定給油設備、給油ノズル等が破損したものの。利用客が給油のために固定給油設備に車両で接近した際、ガードポール等に接触し破損した。
34	6月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により事務所の壁が破損したものの。利用客が乗用車への給油を終え、当該給油取扱所から出ようとした際に事務所直近に設置している第四種消火設備（大型消火器）に接触し、当該接触により押された第四種消火設備が事務所壁体に接触したことにより破損した。
35	6月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により給油ノズルが破損したものの。利用客が給油をするために車両を後退させた際に給油ノズルに接触し破損した。
36	6月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触によりガードポールが破損したものの。利用客の車両が荷卸し中の移動タンク貯蔵所の脇を抜けて給油レーンに進入しようとした際に、ガードポールに接触し破損した。
37	6月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により固定注油設備のキャノピーが破損したものの。利用客の運転する8トントラックが給油レーンに進入しようとした際に、荷台部分が固定注油設備のキャノピーに接触し破損した。

No	覚知月	施設区分	死傷者	概要・原因・被害状況
38	6月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により給油取扱所のパッケージ型固定泡消火設備の筐体が破損した。利用客が、給油後に当該給油取扱所から出ようとした際に運転を誤り、パッケージ型固定泡消火設備に接触し破損した。
39	7月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により固定給油設備の一部が破損した。利用客が給油を行うため車両を給油レーンに向かって後退させた際に、固定給油設備の給油ノズルの受け台に接触し破損した。
40	7月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により給油ノズルが破損した。利用客が給油を行うために車両を固定給油設備に寄せたところハンドル操作を誤り給油ノズルに接触し破損した。
41	7月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により洗車機のゲートが破損した。利用客が洗車を行うため洗車機に向かって車両を前進させた際、ハンドル操作を誤り洗車機のゲートに接触し破損した。
42	7月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触によりガードポールが破損した。利用客が乗用車に給油を行うため固定給油設備に接近した際に、ガードポールまでの距離を見誤り接触し破損した。
43	7月	給油取扱所 (フル)	死者 0人 負傷者 0人	経年劣化及び強風等により外壁のサイディングボードが剥離し、隣棟の敷地内へ落下した。
44	7月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	利用客が車両で給油レーンに進入した際、ハンドル操作を誤り給油ノズルに接触し破損した。
45	7月	給油取扱所 (セルフ) ※一部フル	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により尿素水溶液供給機及びガードポールが破損した。利用客のダンプカーがフルサービスの固定給油設備に近づけるために後退した際、当該車両の左後方が、尿素水溶液供給機及びガードポールに接触し破損した。
46	8月	給油取扱所 (フル)	死者 0人 負傷者 0人	給油取扱所でレギュラーガソリンのタンクに軽油をハイオクガソリンのタンクにレギュラーガソリンを軽油タンクにハイオクガソリンをそれぞれ注入したことでコンタミした。出荷基地で実施するデータの書換え操作を誤ったこと、確認作業を怠ったことにより荷積時に誤った油種を積んだことが判明した。
47	8月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により固定給油設備が破損した。利用客が給油を行うため、乗用車を固定給油設備に後退しながら寄せた際に固定給油設備に接触し破損した。
48	8月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により給油ノズルが破損した。利用客が給油を行うおうとしたところ、車両がガソリンの給油ノズルに接触し破損した。
49	8月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	給油ホースの安全継手部分から給油ホースが離脱した。利用客が大型トラックの複数ある燃料タンクにそれぞれ別の給油ノズルを挿し込み給油を終えた後、燃料タンクに給油ノズルを挿しこんだまま発進させたため、給油ホース2本が安全継手部分から離脱した。
50	8月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触によりキャノピーの柱及び当該柱の土台部分が破損した。利用客が車両を固定給油設備に近づけようとした際、アクセルを過度に踏み込んだため接触し破損した。
51	9月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	給油のために前進で進入したマイクロバスが、衝突防止装置と接触し、破損した。
52	9月	給油取扱所 (自家用)	死者 0人 負傷者 0人	定期点検（漏れの点検）を行った際に、2基ある地下専用タンクのうち軽油を貯蔵している地下専用タンクの通気管からの気密異常が確認された。
53	9月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触によりガードポール及び尿素水溶液供給機のタンクが破損した。利用客が大型トラックに給油するため後退しながら給油レーンに進入した際にガードポール及び尿素水溶液供給機のタンクに接触し破損した。
54	9月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により固定給油設備の給油ノズルホルダーが破損した。利用客が給油を行うため給油レーンに進入した際、車両の左前方が給油ホースを巻き込んだことにより給油ノズルのホルダーが破損した。
55	9月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触により給油ノズルが破損した。利用客が給油を行うため給油レーンに向かって車両を前進させた際、給油ホース3本と接触したことにより給油ノズル3基が落下し破損した。

No	覚知月	施設区分	死傷者	概要・原因・被害状況
56	9月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両の接触によりエアチャージャー等が破損した。利用客が当該給油取扱所に併設されている飲食店で休憩しよう車両を駐車する際に、一度停車したが、駐車位置を修正するために前進しようとアクセルを踏んだところ、ギアがRに入っていたため車両が後退し、エアチャージャー等に接触し破損した。
57	9月	給油取扱所 (フル)	死者 0人 負傷者 0人	従業員による給油が終わったと認識した運転手は、前のレーンが空いたため前方に移動したところ、給油は停止していたが給油口に給油ノズルが挿さったままであったため、固定給油設備の安全継手が破損した。
58	9月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	車両が方向転換する際に屋外電源コンセント支柱に接触し破損した。
59	10月	給油取扱所 (フル)	死者 0人 負傷者 0人	移動タンク貯蔵所が荷卸し作業後に注入ホースを注入口に接続したまま車両を1メートル程度移動させたことで、注入口、注入口の配管及び注入ボックスが破損した。
60	10月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	4トントラックが給油口に給油ノズルを挿入したまま発進し、固定給油設備のホースの安全継手が離脱した。
61	10月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	大型トレーラーが燃料補給のため給油レーンに進入する際、内輪差によりけん引部分の巻き込み防止バーをガードポールに接触させ破損した。
62	10月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	乗用車が給油のため敷地に乗り入れ給油空道を走行していたところ、歩道との境界に設置された電光看板用屋外コンセント付き自立ポールに接触した。
63	10月	地下タンク 貯蔵所	死者 0人 負傷者 0人	地下貯蔵タンク3基の定期点検（漏れの点検）を実施した際、1基のみタンクプロテクター内の液面計が挿入されている金属製ノズルが腐食・亀裂し気密漏れが生じていた。
64	10月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	利用客が車両を方向転換する際に屋外電源コンセント支柱に接触し破損した。
65	10月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	給油レーンにおいて、給油ホースの余長がフックにかけられていない状態で地盤面上にあったことから、大型トラック1台が給油ホース上を走行したため、収納してあった給油ノズルが引っ張られて収納位置から離脱して落下し、給油ノズルのレバーが破損した。
66	10月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	利用客が車両を右折させて給油レーンに進入しようとした際に、車両の左前部を固定給油設備のガソリン、ハイオクの各ノズルホルダー及び看板に衝突させた。
67	10月	地下タンク 貯蔵所	死者 0人 負傷者 0人	地下タンク貯蔵所の送油配管及び返油配管が設置されている車両通行部分は、配管ピット部分を鋼製の蓋で保護をしていたが、塵芥車が走行した際に鋼製の蓋を浮き上がらせ、鋼製の蓋、ピット内の返油配管及び送油配管を破損した。
68	10月	一般取扱所	死者 0人 負傷者 0人	台風22号の風の影響により、避雷設備及び二酸化炭素消火設備用の二酸化炭素ボンベ室の鉄扉が破損した。
69	10月	給油取扱所 (フル)	死者 0人 負傷者 0人	台風22号の影響により、事務所の壁が一部破損した。
70	10月	給油取扱所 (フル)	死者 0人 負傷者 0人	台風22号の影響により、通気管の一部が折損した。
71	10月	給油取扱所 (フル)	死者 0人 負傷者 0人	台風22号の風の影響により、給油取扱所内の洗車機のレールが歪み、洗車機が起動しなくなった。また、整備室の看板が破損したほか、電柱の傾きにより敷地内の電柱が引っ張られ、折損した。
72	10月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	台風22号の風の影響により、給油取扱所内の固定給油設備の液晶部分及び監視カメラが破損したほか、洗車機の一部フレームが破損した。
73	11月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	顧客の運転する乗用車が、アクセル操作を誤り、サービスピット内に設置された固定注油設備に衝突し破損した。

No	覚知月	施設区分	死傷者	概要・原因・被害状況
74	11月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	顧客の運転する乗用車が、固定給油設備の衝突防止安全ボールに車両の左後部ドア付近を接触させ破損した。
75	11月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	工事中に誤って専用タンクの液面表示計の配線を切断したものの。
76	11月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	利用客が、洗車機を利用中に車両右前車輪が洗車機内部のボックスと接触したものの。
77	11月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	自動ドアのポスターを張替え中に、パッケージ型固定泡消火設備の起動装置の付近にあるカードスキャナーを落下させ、元の場所に戻した時に、起動装置のボタンを誤って押し誤作動した。
78	12月	一般取扱所	死者 0人 負傷者 0人	天井に設置された全域泡消火設備のフォームヘッド1個から、泡消火薬剤が何らかの原因で放出されたもの。
79	12月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	20トントレーラーの燃料補給のため給油レーンに進入する際、内輪差により荷台部分をガードポールに接触させたもの。
80	12月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	利用客が給油レーンに進入しようと後進させた際に、車両の左後方部分を固定給油設備に衝突させたもの。
81	12月	給油取扱所 (フル)	死者 0人 負傷者 0人	乗用車が切り返しを行う際にブレーキとアクセルを踏み間違え事務所に衝突し、外壁及び扉を破損させたもの。
82	12月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	トラック運転者が給油を終えて車両を発進させた際、左リアのオーバーハングで固定給油設備の給油ホース及び給油ノズルに接触し、破損したもの。
83	12月	地下タンク 貯蔵所	死者 0人 負傷者 0人	定期点検（漏れの点検）時に気密異常の地下貯蔵タンクを見つけ、漏れの箇所を調査したところ、地下貯蔵タンクのマンホールの上蓋の気密を確保するゴムが劣化したことによって漏気が確認されたもの。
84	令和8年 1月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 0人	利用客が、給油レーンに進入しようと後退させた際に、車両の前部を固定給油設備の給油ノズルに接触させ破損したもの。

(4) 死傷者の発生した事故の抜粋※ (9件)

No	覚知月	施設区分	死傷者	概要・原因・被害状況
1	1月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 1人	固定注油設備等が破損したものの。利用客が停車中の2台の車両の間を後退で抜けようとした際に、ブレーキとアクセルを踏み間違えて、固定注油設備等に接触したものである。
2	1月	屋内貯蔵所	死者 0人 負傷者 1人	屋内貯蔵所において、屋上に設置されている室外機の点検整備を実施中に作業員が転落したものの。当人が後方に下がった時、陸屋根の端部パラペットに足を取られ、後方地面に転落したものである。
3	5月	移動タンク 貯蔵所	死者 0人 負傷者 1人	トンネル内において、移動タンク貯蔵所が乗用車に追突したものの。危険物の流出及び危険物の規制がかかる箇所の破損はない。
4	5月	少量危険物 貯蔵取扱所	死者 0人 負傷者 1人	少量危険物貯蔵取扱所兼指定可燃物貯蔵取扱所である廃棄物処理施設において、焼損床面積1,163平方メートル等が焼損したものの。破砕機に投入された廃棄物から出火し、ベルトコンベア及び他の廃棄物を介して建物全体に延焼したものである。
5		指定可燃物 貯蔵取扱所		
6	6月	無許可施設	死者 0人 負傷者 1人	工場である無許可施設において、床50平方メートル等が焼損したものの。誤ってシンナーをこぼしたため可燃性蒸気が発生し、付近に設置された乾燥炉のモーターで発生した火花が引火したものである。
7	8月	給油取扱所 (セルフ)	死者 0人 負傷者 1人	ガソリン約2リットルが流出したものの。利用客が娘に給油をさせていた際に、何らかの拍子にノズルを握ったままの状態でご給油ノズルが給油口から抜け、ガソリンが娘にかかったものの。
8	8月	屋内タンク 貯蔵所	死者 0人 負傷者 1人	冷温水発生装置に灯油を供給するための屋内タンク貯蔵所において、送油配管から灯油3リットルが流出したものの。同敷地内に存する車両のタイヤの保管場所を移動するため、約3メートル間隔で人員を配置しバケツリレーの要領でタイヤを転がしていたが、その際にタイヤのバランスが崩れ、屋外に存する冷温水発生装置への送油配管に接触し配管が破損したことで灯油が流出したものである。なお、職員が当該流出を手で押さえて止めようとした際に灯油の飛沫が目に入り軽傷者が1名発生している。
9	8月	給油取扱所 (フル)	死者 0人 負傷者 1人	2階事務室内において、従業員がソファで休んでいると、電気ケトル及びエアコンを接続しているテーブルタップから「バチバチ」と音が聞こえてきたため確認すると、テーブルタップのコードが焼損していた。従業員は電気ケトルのコンセントをテーブルタップから抜くことによって消火したが、コンセントを抜いた際に左手に痛みを感じたため、救急相談センターに相談したところ、転送され119番通報となった。

※「(1) 火災事故」、「(2) 流出事故」、「(3) その他の事故」からの抜粋、再掲